



(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

| | | | | |
|----------------|--|---|--------------------|-----------|
| 学校番号・学校名 | 〈小・25〉 | いわき市立 | 桶売 | 小学校 |
| 〈実施日〉 | 平成 27年 12月 9日 (水) | | | |
| 〈実践教科等〉 | ※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。 | | | |
| | 1 理科 | ○2 学級活動 | 3 総合的な学習の時間 | 4 その他 () |
| 〈実践内容〉 | 1 本時のねらい 身近な場所の放射線量について知り、適切な行動について考えることができる。 | | | |
| | 2 授業の実際 | | | |
| | (1) 放射線についてのイメージを話し合う。 ・ 怖い ・ 危ない | | | |
| | (2) グループごとに校舎の周りの放射線量を測定し、ハザードマップを作成する。 | | | |
| |  |  | | |
| | (3) ハザードマップをもとに、学校の周りの放射線量について気づいたことを発表する。 ・ 校庭や通学路の放射線量は低い。 ・ 校庭横の土手の放射線量は高い。 ・ 土手にはあまり近づかないようにしよう。 | | | |
| | (4) 授業を振り返っての感想を発表する。 ・ 場所によって放射線量に違いがあることが分かった。 ・ 気をつけなければならない場所があることが分かった。 | | | |
| 〈成果〉 | ・ 身近な場所の放射線量について知ることができたので、児童の放射線に対する危機意識を高めることができた。 ・ 外部講師（中学校の先生）を呼んだことで、教材のアドバイスをいただいたり、児童に専門的な話をしていただいたりすることができた。 | | | |
| 〈課題〉 | ・ 事故から時間が経過したことにより、放射線問題に対する関心が低下しているように感じられた。今後も継続して指導していく必要がある。 ・ 教師自身も放射線についての知識をきちんと備えておかなければならない。 | | | |
| 資料作成担当者職（教諭）氏名 | (佐藤 茂義) | | 学校電話番号 (84-2230) | |

【資料作成上の注意】

- 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
- 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先: kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)